

館藏品展「高岡捺染の祖・笹原文次資料展」出品リスト
〔会期：平成27年2月7日(土)～5月6日(水・振休)〕

1. 花形産業・高岡捺染						
No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横, cm)	備考	所蔵先(寄贈者名)
1	写真「高岡の友禅工場」	明治42年(1909)	1	—	高岡友禅の作業風景。捺染工場の多くは、千保川沿いの地域に集中していた	高岡市蔵
2	写真「捺染工場」(複写)	昭和34年(1959)	1	—	スクリーン捺染の作業風景。当時製品の90%はアジア地域に輸出された	『保存版 ふるさと高岡』(郷土出版社, 2009年)
3	高岡市特産品案内リーフレット	昭和9～10年(1934～35)頃	1	19.2×8.9	「高岡市の工産及び名物」として、銅器や漆器と並び捺染製品が紹介。表面は高岡市内略図と概要が記載	当館 (藤本一美氏)
4	『高岡市勢要覧』	昭和11年(1936)	1	12.3×19.3	発行・高岡市役所。本市の市勢について、同10年のデータを中心にまとめたもの。主要生産物のグラフが掲載	当館
5	高岡市商工奨励館リーフレット	昭和12～13年(1937～38)頃, 同16年	2	—	高岡の物産品を写真で紹介したリーフレット	当館 (須賀正紀氏)
2. 文次による特許取得と受賞の数々						
1	写真「笹原文次」	生没年：安政4～昭和2年(1857～1927)	1	—	守山町の染物業・4代絹屋文助の子として誕生。明治17年「捺染直接摺込法」を発明。染色機械改良の研究を重ね、数々の特許権を取得。業界の発展・後進の指導に尽力。享年71	当館 (笹原荘太郎氏)
2	『新選 古代模様鑑』(天・地)	〔天〕明治18年(1825) 〔地〕同17年	2	—	編集・児玉永成、出版・大倉孫兵衛。文次が使用した図案参考見本帳。正倉院御物や寺社の宝物などの古代裂文様が掲載	当館 (笹原荘太郎氏)
3	『家事記録』	明治37年(1904)	1	17.8×12.2×厚2.4	明治後期から大正期までの商売状況や工場見取図などが記載。「鹿ノ子印」の商標登録について特許局長へ願い出ている記録もある	当館 (笹原荘太郎氏)
4	『旧記』	明治36年(1903)	1	18.9×13.5×厚3.0	明治29年1月から昭和2年2月2日までの笹原家に関わる金銭貸借の内容がわかる帳簿	当館 (笹原荘太郎氏)
5	新聞記事「百万円の新産物」(複写)	「高岡新報」明治45年(1912)2月19日付	1	—	明治21年に実用化された「新モス友禅」は京友禅にも見劣りせず、大量生産が可能のために安価で販売され、全国に販路を伸ばした	当館
6	「石塚嘉平建築工務所工事歴覚書帳」	明治38～大正14年(1905～1925)	1	16.8×10.9×厚2.6	高岡市の同工務所の工事歴47件が記載。明治38年に笹原文次より捺染の機械製作依頼があったことが記載	当館 (石塚仍康氏)
7	笹原家平面図	大正8～13年(1919～24)頃	1	24.4×16.1	文次が高岡市旅籠町に居住していた頃の住居平面図。各部屋の間取りや間数などが記載	当館 (笹原荘太郎氏)
8	飛見丈繁著『高岡捺染の祖・笹原文次翁』原稿	昭和11年(1936)	1	24.1×17.0	評伝出版の2ヶ月前に書かれた原稿	当館 (笹原荘太郎氏)
9	飛見丈繁著『高岡捺染の祖・笹原文次翁』	昭和11年(1936)	1	19.0×12.9	文次の出生から高岡捺染の発展への尽力、死去に至るまでについて記された評伝	当館 (笹原荘太郎氏)
10	高岡物産品評会二等褒賞状	明治38年(1905)11月4日	1	39.1×53.9	富山県知事・李家隆介から笹原文次宛。新モスリン友禅が当品評会で二等を受賞した際に授与された褒賞	当館 (笹原荘太郎氏)
11	皇太子殿下新モスリン友禅御買上につき表彰状	明治42年(1909)10月5日	1	31.0×42.0	高岡市長・松島喜五郎から笹原文次宛。皇太子殿下(後の大正天皇)が高岡物産陳列所に行啓した際、出品中の新モスリン友禅を購入されたことについて授与された表彰状	当館 (笹原荘太郎氏)
12	第10回関西府県連合共進会四等賞褒状(新モスリン友禅)	明治43年(1910)6月5日	1	40.3×53.2	農商務大臣・小松原英太郎から笹原文次宛。本共進会は、名古屋市の現・鶴舞公園周辺を会場として各地の産業発展を目的に開催。入場者は約263万人	当館 (笹原荘太郎氏)

13	富山県主催一府八県連合共進会二等賞銀牌授与状(新モスリン友禪)	大正2年(1913)10月15日	1	40.7×54.2	農商務大臣・山本達雄から笹原文次宛。本共進会は、浜田恒之介県知事のもと大正元年の伏木港修築完成、同2年の北陸本線全通を県発展の機会ととらえ開催。入場者は72万人余り	当館 (笹原荘太郎氏)
14	東京大正博覧会銀牌授与状(綿モスリン友禪染)	大正3年(1914)7月10日	1	47.0×60.8	同博覧会総裁・載仁親王などから笹原文次宛。本共進会は、大正天皇即位の奉祝記念に上野公園を会場に開催	当館 (笹原荘太郎氏)
15	帝国発明協会特等賞牌授与状	大正11年(1922)4月29日	1	38.9×53.8	帝国発明協会会長・阪谷芳郎から笹原文次宛。文次考案の特許「金形製造法」で特等賞牌を受賞	当館 (笹原荘太郎氏)
16	「金形及製作方発明」専売特許願	明治21年(1888)7月16日付	1	27.1×19.4	笹原文次から農商務省大臣・榎本武揚宛。特許期間は15年で、免許料20円を添えて専売特許証の発行を願い出たもの	当館 (笹原荘太郎氏)
17	「金形及製造方」明細書	明治21年(1888)7月16日付	1	27.1×19.2	笹原文次から農商務省大臣・榎本武揚宛。従来よりも染めの手順が少なく米糊の消費を抑え、美しく仕上がる方法について説明	当館 (笹原荘太郎氏)
18	「金形及製作方」答弁書草稿	明治21年(1888)頃	1	28.0×19.5	文次が本発明の専売特許申請手続きの際にまとめた答弁書	当館 (笹原荘太郎氏)
19	「染色用改良金形」特許願(案)	明治26年(1893)9月10日付	1	27.7×19.9	笹原文次から農商務大臣・後藤象二郎宛	当館 (笹原荘太郎氏)
20	笹原式縞染装置特許委任に関する約定証	明治40年(1907)11月27日付	1	24.8×32.2	出願人・笹原文次から岡田謙三郎宛。文次発明「笹原式縞染器」の特許権委任について依頼する文書	当館 (笹原荘太郎氏)
21	特許証「笹原式縞染器」	明治40年(1907)12月26日付	1	32.2×23.4	特許局長・中松盛雄から笹原文次宛。本器の使用により、鮮やかな縞染が簡単・正確・迅速に行うことができると説明	当館 (笹原荘太郎氏)
22	実用新案登録証「色引糊込機」	明治41年(1908)2月20日付	1	32.8×23.4	特許局長・中松盛雄から笹原文次宛。本機の使用により、布面に均等かつ正確に糊や染料を付着させることができると説明	当館 (笹原荘太郎氏)
23	特許証「笹原式捺染器」	明治41年(1908)2月22日付	1	32.3×23.3	特許局長・中松盛雄から笹原文次宛。本器の使用により、従来の手染めに見られる継ぎ目のずれや刷毛による染色の凹凸がなく、均一に染めることができると説明	当館 (笹原荘太郎氏)
24	追加特許証「笹原式染用器」	明治41年(1908)3月19日付	1	32.3×23.2	特許局長・中松盛雄から笹原文次宛。本器では布の表裏両面に同時に縞染でき、縞目模様を出すための染液や色糊を均等に布に付着させることができると説明	当館 (笹原荘太郎氏)
25	特許証「金形製造法」	明治41年(1908)6月26日付	1	32.2×23.3	文次の画期的な発明。型紙を貼った金属板の両面に漆の被膜を作り、模様部分に薬剤を付け腐食させて模様を施す方法を説明	当館 (笹原荘太郎氏)
26	「金形製造法」明細書	明治41年(1908)頃	1	26.8×38.4	金型製造の仕組みが図解され、分かりやすく説明したもの	当館 (笹原荘太郎氏)
27	各種部分模様亜鉛板型	明治後期	3	—	幾何学模様などが透かし彫りされた金型。従来の破損しやすい型紙から亜鉛板型へ変えることで、量産に耐えられるようになった	当館 (笹原荘太郎氏)
28	鶏図捺染亜鉛板型	明治後期	6	—	鶏が透かし彫りされた金型。亜鉛板型は紙型と比べて伸縮もなく丈夫だった	当館 (笹原荘太郎氏)
29	草花図捺染亜鉛板型	明治後期	2	—	草花模様が透かし彫りされた金型。亜鉛板型と下図、摺り見本がそれぞれ対応	当館 (笹原荘太郎氏)
30	草花図金形下図		3	—	文次が特許申請した「金形製造法」の見本サンプルとして添付されたと考えられるもの	当館 (笹原荘太郎氏)
31	草花図金形摺り布		1	52.6×37.6		
32	捺染摺り布見本各種		3	—	草花模様の摺り見本	当館 (笹原荘太郎氏)
33	特許証「笹原式両面捺染機」	明治41年(1908)7月15日付	1	32.2×23.3	丸刷毛に染液を含ませて、模様を迅速に表裏精確に行うことが可能であると説明	当館 (笹原荘太郎氏)
34	特許「笹原式両面捺染機」図面		2	—	第3図から第6図までが記載。第1図・第2図は特許証に付属	当館 (笹原荘太郎氏)

35	「自利利他煙管」実用新案登録願(案・原本)	明治42年(1909)1月6日付	2	—	笹原文次から特許局長・中松盛雄宛。本書類は、一度特許局に提出されるが収入印紙の貼り忘れのため受理されずに返却されたもの	当館 (笹原荘太郎氏)
36	「笹原式糊置型」特許願・明細書(案)	明治44年(1911)9月19日付	2	—	笹原文次から特許局長代理・宿利英治宛。この型は無地の板金型に紙型の模様を写し、彫り抜いて金型を作り、それを紙型の表裏に貼り付けるというもの	当館 (笹原荘太郎氏)
37	「笹原式糊置型」特許拒絶査定謄本送達書	明治44年(1911)11月16日付	1	25.0×16.5	特許局長・中松盛雄から笹原文次宛。特許申請が不認可である旨を伝える送達書	当館 (笹原荘太郎氏)
38	「笹原式糊置型」特許拒絶査定に対する不服の理由	明治44年(1911)頃	1	24.1×16.7	特許拒絶について、文次が「本発明の工業的真価を誤解され、不当の査定である」という内容を記す意見書	当館 (笹原荘太郎氏)
39	実用新案登録証「笹原式捺染台」	明治44年(1911)10月9日付	1	32.0×23.3	特許局長・中松盛雄から笹原文次宛。本台の使用により、作業を一時中断した後でも、型の継ぎ目を正確に合わせて作業再開することができるという説明	当館 (笹原荘太郎氏)
40	「笹原式摺染法」特許願・明細書(案)	明治44年(1911)12月11日付	2	—	笹原文次から特許局長・中松盛雄宛。明細書には発明の目的・概要・実施方法が記載	当館 (笹原荘太郎氏)
41	「笹原式摺染法」拒絶査定謄本	明治45年(1912)6月19日付	1	24.2×32.9	特許局嘱・荒井正太から笹原文次宛。本発明の特許が不認可である旨を伝える書類	当館 (笹原荘太郎氏)
42	実用新案登録証「笹原式捺染台」	明治45年(1912)1月9日付	1	32.2×23.4	特許局長・中松盛雄から笹原文次宛。本台の使用により燃料が節約され、より安全な操業が可能になると説明	当館 (笹原荘太郎氏)
43	「捺染用貼布板」実用新案登録願(案)	明治45年(1912)2月5日付	1	28.3×20.3	笹原文次から特許局長・中松盛雄宛。ゴムを用いて金板に可染色布を貼りつけて作る捺染用貼布板について説明	当館 (笹原荘太郎氏)
44	実用新案登録証「欄間」	明治42年(1909)12月27日付	1	32.0×23.3	特許局長・中松盛雄から笹原文次宛。本発明の欄間は、動植物の博物標本や造花・模造標本を入れ込むというもの	当館 (笹原荘太郎氏)
45	実用新案登録証「人動力肩受器」	大正12年(1923)5月18日付	1	31.9×23.4	特許局長官・中川友次郎から笹原文次宛。本器の使用により、水田用水車や足踏運転車両を動かす際に、運転者が有する以上の力を容易に出すことができると説明	当館 (笹原荘太郎氏)
46	市内捺染会社・工場広告各種(複写)	大正12年(1923)	5	—	当時高岡市内にあった捺染会社や工場の宣伝広告(吉川友仙工場・高岡染業株式会社・日本プリント工場・丸二友禪工場・井波合名会社)。『高岡商工案内』(高岡商業会議所、1923年)より	当館
47	写真「㈱日本プリント工場」	平成13年(2001)	1	—	大正6年創業。高岡捺染を革新した井上佐太郎の指導により設立。その後県工業試験場の高瀬満治を主任技師に任用し、大正6年高瀬によるサロン型の考案・特許取得により高岡捺染初の海外進出を果たす。平成13年頃まで操業を続けた	当館
48	写真「精練作業」	昭和20～30年代	1	—	㈱日本プリント工場。生地繊維中に含まれる汚れや細々したゴミ、糊を取り除く	当館
49	写真「色糊づくり」	昭和20～30年代	1	—	㈱日本プリント工場。色糊は数種類の合成染料と糊を混ぜ合わせて作られ、一斗缶や桶などに入れて調合・保管した	当館
50	写真「図案制作作業」	昭和20～30年代	1	—	㈱日本プリント工場。商品の図案制作を行う	当館
51	写真「図案トレース作業」	昭和20～30年代	1	—	㈱日本プリント工場。でき上がった図案をもとに型を制作する	当館
52	写真「スクリーン型の制作作業」	昭和20～30年代	1	—	㈱日本プリント工場。図案をもとに型を制作して木枠に嵌め込む。スクリーン型とは、紗(生糸を用いた布)や金網上に模様を抜き取って成形した型のこと	当館
53	写真「自動スクリーン捺染作業」	昭和20～30年代	1	—	㈱日本プリント工場。でき上がったスクリーン型の上から色糊を塗り当てて布地にプリントする	当館

54	写真「蒸熱・発色作業」	昭和20～30年代	1	—	(株)日本プリント工場。蒸熱は、色糊を生地に固着させるために行う作業のこと。生地を蒸すことで、色味を発色させる働きもある	当館
55	写真「水洗・乾燥作業」	昭和20～30年代	1	—	(株)日本プリント工場。生地についた糊や余分な染料を流すため、80℃の湯で洗い、乾燥させる。機械化される前は、千保川で水洗いされていた	当館
56	写真「検反作業」	昭和20～30年代	1	—	(株)日本プリント工場。色むらや汚れ、傷などを検査し、出荷前の採寸を行う。その後製品の梱包・発送となる	当館
57	高岡捺染 法被	昭和26年(1951)	1	93.6×123.2	製作・富山県染工(株)。同年開催の高岡産業博覧会で高岡捺染を市内外の来賓へ広く紹介するために作られたもの	神保成伍氏
58	高岡捺染 プリント生地	平成12年(2000)頃	2	—	金屋町にあった、(株)日本プリント工場で作られた高岡捺染のプリント生地	当館
59	高岡捺染 プリント生地見本帳	昭和51年(1976)	10	—	(株)日本プリント工場で製造されたプリント生地の見本帳。見本帳は商社へ貸し出し、商品注文を受けていた	当館 (林泣童氏)
60	『高岡商工案内』	大正12年(1923)	1	19.0×10.6	発行・高岡商業会議所。高岡市内にある会社・銀行・商店などの情報をまとめたもの。宣伝広告も掲載	当館
61	『高岡商工一斑』	大正15年(1926), 昭和2年(1927)	2	—	発行・高岡商業会議所。本市の人口・物価などをまとめたもの。裏面は市内にあった捺染会社や工場が記載	当館 (高橋君江氏)
62	『高岡産業案内』	昭和10年(1935), 同11年	2	—	発行・高岡商業会議所。高岡市の産業についての統計をまとめたもの。各産業の職工・工場数なども記載	当館
63	高岡市街鳥瞰図リーフレット	昭和11年(1936)	1	17.6×49.7	原図・吉田初三郎。高岡市街地を中心に描く鳥瞰図を元に制作されたリーフレット。千保川沿いに多くの捺染工場が建つ	当館
64	『旅客案内 高岡駅』	昭和7年(1932)	1	13.0×9.0	発行・高岡駅。高岡駅発着の時刻表や乗車運賃などの情報のほか、本市の特産品や会社の宣伝広告も掲載	当館
65	『高岡市勢要覧』	昭和17年(1942)	1	12.7×18.5	発行・高岡市役所。本市の市勢について同16年のデータを中心にまとめたもの	当館 (堀田光子氏)
66	『高岡市勢概要(高岡産業博覧会)』	昭和26年(1951)	1	20.8×15.1	発行・高岡市役所。同年行われた高岡産業博覧会(於・高岡古城公園)開催の折に発行。同25年度までの人口や農・産業等の統計が掲載	当館 (岡田辰雄氏)
67	『高岡市勢要覧』各種	昭和40～60年代	5	—	発行・高岡市役所。昭和40年9月・同43年11月・同45年12月、同48年12月、同63年8月の5冊	当館
68	高岡捺染 暖簾		1	169.4×105.8	原田染工(高岡市内)製作の暖簾	神保成伍氏
69	高岡捺染 花嫁暖簾		1	164.2×94.8	高岡市内の商店で作られた花嫁暖簾	神保成伍氏
70	グラフ「高岡における捺染産業の生産額」(戦前)	明治39～昭和19年(1906～44)	1	—	単位：千円	制作・当館
71	グラフ「高岡における捺染産業の生産額」(戦後)	昭和22～同55年(1947～80)	1	—	単位：百万円	制作・当館
72	グラフ「高岡における捺染産業に従事する男女別職工数」	明治39～昭和10年(1906～35)	1	—		制作・当館
73	グラフ「高岡における捺染産業に従事する職工総数の推移」	明治39～昭和53年(1906～78)	1	—		制作・当館
74	グラフ「高岡における捺染工場の数」	明治39～昭和53年(1906～78)	1	—		制作・当館

※資料保存のため、一部展示替えをすることがあります。
 ※写真・グラフ・複写物・複数資料の寸法は割愛しました。

計 79件117点